



写真：当研究科水圏生物科学専攻所蔵

## 雨宮育作（1889(明治 22)～1984(昭和 59)）

山梨県東山梨郡日下部村七日市場（現山梨市）に、日下部村会議員を務めた父「景通」母「じつ」の四男として生まれる。

長兄は日下部村長・日下部町長や山梨英和女学校(現山梨英和学院)校長・理事長を務めた雨宮敬作(1879～1964)。次兄は海軍兵学校第 33 期で、戦艦霧島・日向の砲術長等を務め、海軍大佐を務めた雨宮厚作(1882～1933)。三兄不詳。敬作の上にも長姉「くま」、三姉「と美」、四姉「まさじ」。次姉不詳。

1914(大正 3)年東京帝国大学農科大学水産学科卒。1919(大正 8)年同大学大学院修了。1920(大正 9)年同大学農学部水産学科助教授。1929(昭和 4)年に教授。1950(昭和 25)年に定年退官。東京大学名誉教授。

東京大学在任中に東北大学教授を兼任し同大学農学研究所長を務め、定年後にも名古屋大学教授(農学部長)、日本大学教授、旧江の島水族館の初代館長等を務めた。カキの生態研究やイワシの地域個体群の研究等が有名である。

昭和 10 年頃、たまたま葉山から船で油壺の理学部臨海実験所(水族館)に遊びにこられた昭和天皇に、助手であった大島泰雄(のちに東大農学部水産学科第二講座教授。農学部長を務めた。作家武田泰淳の兄)と一緒に種々の標本をお目につけ、ご説明申し上げたりしたことがあるという。

東京帝国大学大学院の学生だった頃、富士山麓の湖水の研究をしていたといい、1919 年には、霞ヶ浦産のワカサギの卵を河口湖と山中湖に初めて移入、試験放流した。

# 山中湖のわかさぎ 100年の歴史 1919(大正8年)～

## 1919(大正8年)

東京帝国大学(現在の東京大学)大学院の大学院生であった雨宮育作(のち東京大学農学部水産学科教授)により、山中湖に初めてわかさぎの卵が試験放流される。

※同時期に放流された河口湖では繁殖したが山中湖では諸事情あって繁殖せず、山中湖には1922(大正11)年に再度放流される。

## 1936(昭和11年)

東京帝国大学農学部林学科講師 西垣晋作により、榛名湖で行われていた「穴釣り」が山中湖に導入される。

## 1937(昭和12年)

山中湖氷上カーニバル開催、カーリングやボブスレーと共に「穴釣り」がプログラムに。

## 1947(昭和22年)

高村忠吉氏を初代組合長として「富士山中湖漁業組合」を発足。

## 1977(昭和52年)

3年間の準備期間を経て組合は合併。「山中湖漁業組合」となる。

## 1993(平成5年)

漁苗センター全面開業。

## 2003(平成15年)

内水面漁業権免許交付。

## 2004(平成16年)

わかさぎ孵化装置の導入。

## 2010(平成22年)

稚魚の成長を促すため、7・8月を禁漁期間に設定。

## 2014(平成26年)

山中湖氷結、穴釣りを許可。

## 2019(平成31年)

山中湖へ、わかさぎが放流されて100周年を迎える。

## 2023(令和5年)

山中湖のわかさぎ放流100周年記念式典を開催。

(山中湖村「山中湖のわかさぎ放流100周年記念式典(2023.2.23)」プログラムより)